

文部科学省 平成30年度

男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業

ターゲット別による学び直しでキャリア&ライフデザイン

実施報告書



主催：(一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 大阪市立大学 株式会社アクセプト

協力：大阪市 厚生労働省 大阪マザーズハローワーク 公益財団法人大阪YWCA

後援：大阪市女性起業家情報交流協会

目次

事業について	1
趣旨・目的、実施体制	
本事業の特徴	2
ターゲット別セミナー報告	3
女性のキャリアを拓くまなびフェスタ報告	11
まとめ	24
おわりに	26
参考資料・データからみる大阪の女性	27

事業について

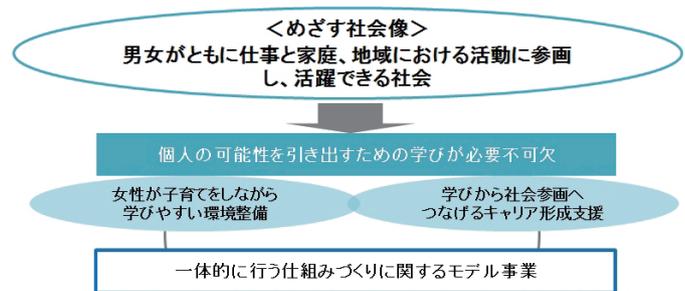
委託事業名

文部科学省 平成30年度 男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業
「ターゲット別による学び直しでキャリア&ライフデザイン」

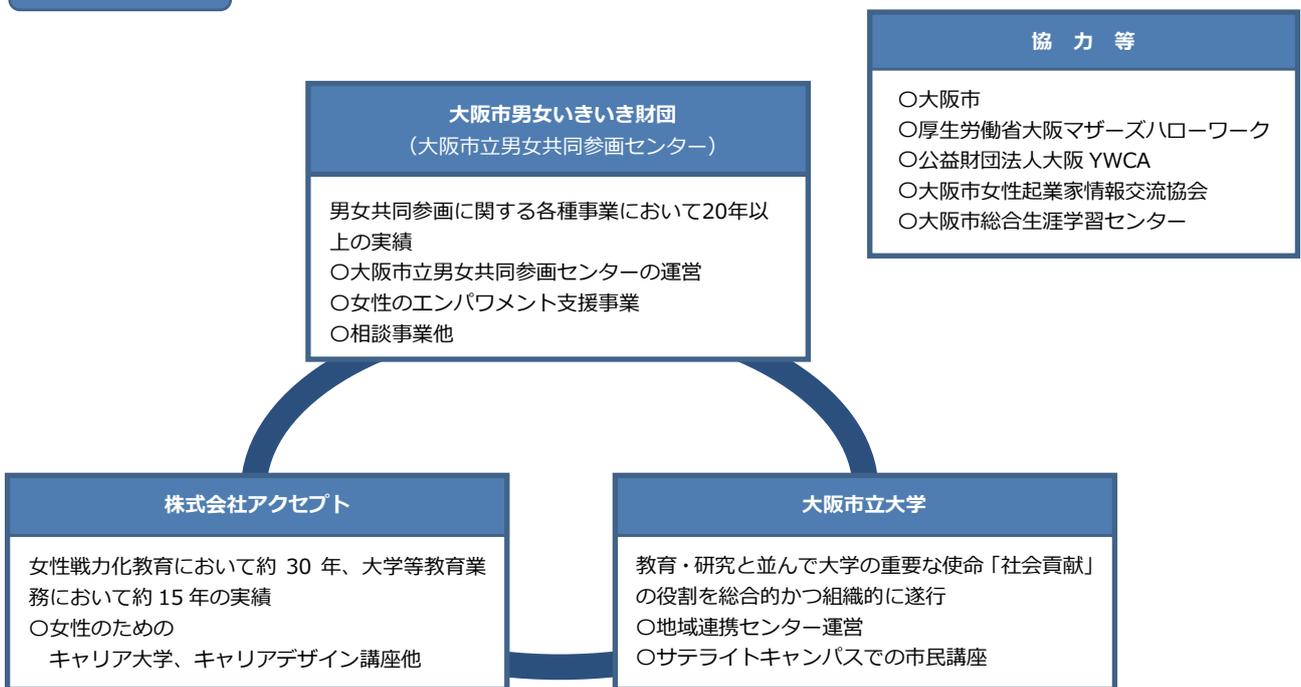
趣旨・目的

人生100年時代を迎えるなかで、男性も女性もともに仕事と家庭、地域における活動に参画し、活躍できるような社会の実現をめざすためには、個人の可能性を引き出すための学びが必要不可欠です。特に、女性の仕事キャリアやライフキャリアは、様々な大きな出来事（結婚、出産、子育て、介護等）の影響を受けやすく、その働き方・価値観・生き方は多様です。

本事業は、女性の学びとキャリア形成（就業・再就職、起業、市民活動等）を一体的に行うことで、年齢や性別に関わらず、多様なキャリアを主体的に選択していくことをめざすモデル事業です。

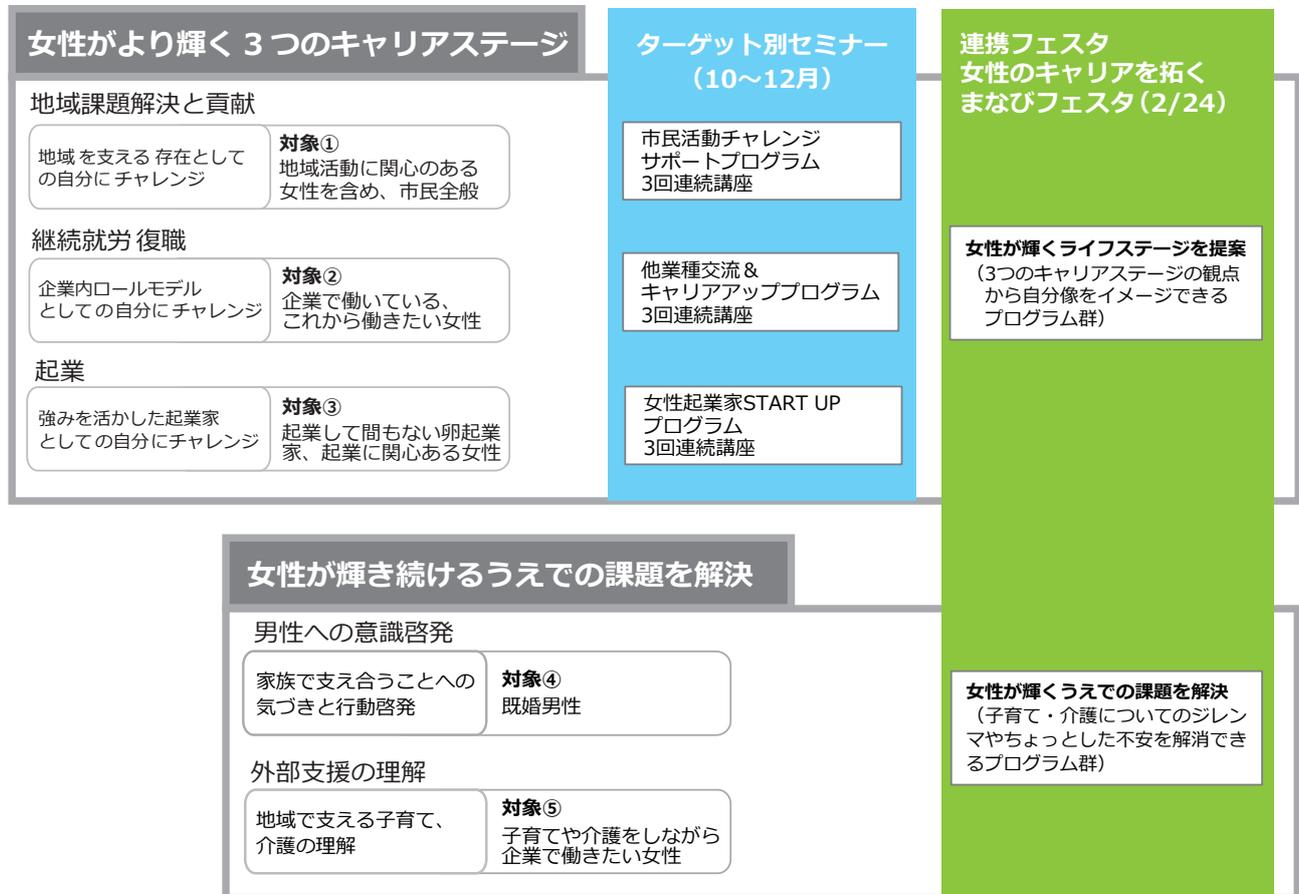


実施体制



本事業の特徴

女性がより輝く3つのキャリアステージについて コンセプト = 学ぶ・考える・つながる、輝く未来



<ターゲット別セミナー>

- 【学ぶ】 ・ 学び直しにより自分のキャリアを再考する
- 【考える】 ・ 体験型・実践型の学びにより、活動に対する意志を前向きに変化させる
- 【つながる】 ・ 参加者同士の学び合い促進

<連携フェスタ 女性のキャリアを拓くまなびフェスタ>

- 【学ぶ】 ・ さらに学びを深める
- 【考える】 ・ 異なるキャリアステージを知り、キャリアに対する複眼的な視点を養う。
- 【つながる】 ・ キャリアステージが異なる人との出会い、学び合い
・ 関係機関・団体等によるネットワーク促進

文部科学省 平成30年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」



女性のキャリアを拓く まなびフェスタ

平成31年
日時 2月24日(日) 10:00~16:00
会場 クレオ大阪中央

雇用保険受給中の方は「求職活動実績」として認定されます



トークセッション
& 交流会

学びとキャリアを重ねてより輝く女性の未来

■コーディネーター

■パネリスト



リー・ヤマネ・清実 氏
Personal Assistant for You LEE's
リーズ代表 中小企業診断士



竹村 知枝 氏
移動する竹村商店



小澤 裕子 氏
公益財団法人大阪YWCA
会長



島生 由起江 氏
大和ハウス工業株式会社
人事部ダイバーシティ推進室
次長



藤生 敬子 氏
株式会社Sarebell Planning
代表取締役



田中 陽子 氏
クレオ大阪子育て館 館長

- パパの子どもとの過ごし方実践講座
- 女性のためのキャリアデザインワークショップ
- 起業アイデアプレゼンセミナー
- 地域の「居場所づくり」をしたい人のためのワークショップ&交流会
- 情報コーナー「育児・介護との両立コーナー」
適職診断(先着順)
「市民活動・生涯学習コーナー」

女性ハンドメイド作家
ワンテールシェ
11:00~14:00

主催：大阪市男女いきいき財団 大阪市立大学 株式会社アクセプト 後援：大阪市女性起業家情報交流協会
協力：大阪市 厚生労働省 大阪マザーズハローワーク 公益財団法人大阪YWCA

< I 他業種交流&キャリアアッププログラム 全3回 >

仕事を通してキャリアアップしたい女性のための講座

講師：垣内 亜佐子（株式会社アクセプト専務取締役・株式会社キャリアリンク専務取締役）

STEP1：女性のワークキャリアの課題を知ろう（10/23）

- アイスブレイク まずはお互いを知り合しましょう

- これまでの“キャリア”をふりかえる

キャリアとは、キャリアアップとは

ワーク① あなたのライフウエーブを考える～グループ共有

ワーク② エピソードを分析する～全体共有

自分のキャリアを見つめ直す（講師のキャリア形成）

- 女性のキャリアアップを考える

ワーク③ 自身にとってのキャリアアップとは～全体共有

女性のキャリアアップの“課題”を考える～今の自分を知る（キャリアアセスメント実施）

STEP2：女性のキャリアアップの課題を考える（11/6）

- アイスブレイク お互いを知り合う

新参加者5名自己紹介

- 前回ふりかえりと次への導入、宿題の共有

- 女性就労を取り巻く社会理解

女性が考える女性管理職のイメージ、近年の管理職に不足している能力・資質

観察スキルの必要性、大阪の男性600人のアンケート結果、女性労働力率（国内、国際比較）

- 女性が働き続けるうえでの課題分析

ロジックツリー分析

STEP3：課題を解決するためのアプローチを考えるキャリアアップへのセルフ・プランニング（11/20）

- 前回ふりかえり

- 課題を解決するためのアプローチを考える

- ・前回の分析（再チャレンジ）

- ・アプローチ「対象」の特定、効果的な働きかけを考える

- 成功モデルの共有

- ・各グループで挙げた課題の分析

- ・変えられる可能性のある項目の中から自身がうまくいっている事例、知人がうまくいっている事例を共有

- キャリアアップへのセルフ・プランニング

10年後のなりたい自分宣言

女性のネットワーク化促進

生の声収集を目的とした
ワーク主体の手法

まとめ

<申込参加状況>

申込者数：18名、参加者数：のべ34名

- **育児休業中、育児経験のある方の参画意欲が非常に高く、キャリアアップへのポテンシャルの高さを感じた。**

⇒能動的、行動的
⇒思考力、表現力が高く、効果的な自己開示ができる
⇒グループワークの際にもリーダーシップを発揮
他の参加者の方から頼られたり、ムードメーカー的な役割など、アンケートでもロールモデル的に高く評価されていた。

- **社歴が長いにつれ、会社の制度や風土、自身の働き方等、会社における自己確立という点に関して自己評価が厳しい傾向があると感じられた。**

⇒周囲のせいではなく、まずは自身を変える、あるいはその努力をしているといった発言をされる方が目立った。
⇒思考力、表現力、グループワークの様子から、現在管理職ではなくても、チームのまとまりを良くする配慮など、リーダーシップの素養がある方々だった。

- **20歳代の若い女性は、仕事とプライベートのバランスをとり、いかに自身が心地よく働くか、ということ大切にされているように感じた。**

⇒「仕事」と「家庭」に加え、「自分」という軸がある
⇒個人のプライベート充実があって、それが会社でのキャリアアップに直結するのが理想

以上から、ジェネレーションや、会社におけるポジション等により、資質、能力、職業観について一定の傾向は見られた。

正解はない。管理職女性から若い女性が学ぶことが多いことはワーク態度やアンケートからわかるが、逆に若い女性から管理職候補あるいは管理職女性が学べることもある。

ジェネレーションも、立場も越えた切れ目のない「学び合い」環境が様々な場所で、さまざまな機会において提供されることで「女性のキャリア形成」のさらなる底上げにつながるのではないかと考える。

< II 女性起業家 START UP プログラム 全3回 >

起業を考えている女性のためのスタートアップ講座

講師：増田 正子（大阪市女性起業家情報交流協会 相談役、司法書士）

STEP1：起業家デビューする前に（11/4）

- **ビジネスの場面で信頼されるためにも、ビジネスセンスの基本について学ぶ**
起業家としての心構えについて
印象づけのための「30秒プレゼン」「エレベータピッチのコツ」
人に好かれる6原則とは
- **なぜ起業したいのか？あなたにとってのゴールを考える**
起業家としての目標と目的を考える
ワーク：30秒250文字自己紹介の作成

STEP2：「想い」や「夢」をカタチにする（11/11）

- **あなたの「想い」や「夢」は？ コンセプトを明確にする**
コンセプトと強みを考える
ワーク：30秒250文字自己紹介 発表
講師、参加者よりフィードバック
- **「誰に何をどのように」提供するのか、ビジネスプランを創る**
ワーク：目標達成シートの作成
SWOT分析の作成

STEP3：「想い」や「夢」をブラッシュアップ（11/25）

- **売り上げ目標は？おカネに困らないために、売れる仕組みを考える**
値付けの考え方、お金の価値について
- **ビジネスプランのブラッシュアップ、発表。フィードバック**
プレゼンテーション：目標に向けた取り組み、起業への想いを1分間で発表
講師、参加者よりフィードバック

フォローアップ：「起業アイデアプレゼンセミナー」（2/24まなびフェスタ内）に向けた勉強会（2/3）

- **プレゼンに臨む姿勢**
やりたいことが明確であれば、人は耳を傾ける
- **準備してきたプレゼン内容を自身でブラッシュアップ**
- **プレゼンの練習（1人5分）**
- **フィードバック**

起業へのスタートアップ促進

相互のフィードバック

まとめ

<申込参加状況>

申込者数：26名、参加者数：のべ47名／フォローアップ勉強会参加者数：7名

「起業したい」という想いを持っていても、家族や職場、身近な友人などになかなか言えないが、同じ想いを持つ参加者とともに学ぶことができるという事で受講された方が多くを占めた。

●参加者の起業ステージ

ステージ	%	事業内容
1.【起業前】漠然と起業を考えている	27.8	
2.【起業前】事業内容は決まっている	44.4	建築、キャリア支援、美容、スタジオ経営、飲食
3.【起業前】起業前であるが、活動をしている	11.1	コミュニティカフェ
4.【起業後】起業して間もない	0	
5. 無回答	16.7	

参加者の起業ステージは、様々であった。起業アイデアについては、子育てや介護、地域コミュニティなど、自身のスキルや専門知識を生かしたものや、社会のニーズや課題に応じた業種（高齢者住宅設計、キャリア支援、親子カフェ、地域の人が集うカフェ等）があがった。

●年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
13.0%	8.6%	30.4%	39.0%	4.5%	4.5%	100%

参加者の年代については、20代から70代と幅広く、出産、子育て、介護、退職などライフイベントが変化するなかで、自身のペースやスタイルを求めた働き方として、また定年後の働き方の一つとして起業を視野に入れる方など、多様化する女性のキャリアステージがあらわれる結果となった。

全3回の受講で、漠然と起業を考えていた人や自身のスキルをいかして起業を考えていた参加者がいま取り組む課題が明確になり、起業にむけてスタートをきることができた。



本セミナーは、自分のキャリアの可能性を広げること、起業の裾野を広げる事業として実施した。参加者の92%が受講後のアンケートにて「起業について考えや意志が肯定的に変化した」と回答したとおり、漠然と考えていたことが具体化した人、自分の強みやコンセプトが整理され明確になった人など、それぞれの起業ステージから1歩後押しすることができた。最終回のプレゼンでは、講師だけでなく参加者同士のフィードバックを行った。参加者からのアドバイスだけでなく、同じ志をもつ女性の頑張る様子そのものが刺激を与え合うこととなり、より学習効果を高めたと考えている。

＜Ⅲ 市民活動チャレンジサポートプログラム 全3回＞

ママだからできる市民活動チャレンジセミナー

講師：柏木 宏（大阪市立大学創造都市研究科 特任教授）〔ステップ1、2〕

徳谷 章子（NPO法人ハートフレンド 代表理事）〔ステップ3〕

ステップ1：人生を豊かにすることの意義と理解（11/15）

●人生を豊かにすることの意義と理解を深める（講師による講義）

- ・豊かさや満足度の内容と時代的变化
- ・市民活動への参加の現状や課題
- ・豊かさと市民活動との関係

●アイスブレイク 話し合いの雰囲気づくり

●グループワーク

- ・はじめまして！ 自己紹介タイム
- ・女性視点で地域課題を考えよう
- ・全体共有

ステップ2：市民活動の基礎知識（11/29）

●市民活動の基礎知識（講師による講義）

活動への参加者と資金協力の増やし方を中心に

●質疑応答

ステップ3：自分自身の人材としての特性を知ろう（12/13）

●実践者の活動を聴く（活動紹介）

実践者から活動のヒントとエネルギーを得る

●セルフワーク

活動時の自身の特性を知る

●実践に向けた活動組織の紹介

女性の視点から地域課題を発見

実践にむけたセルフワーク

まとめ

<申込参加状況>

申込者数：17名、参加者数：のべ31名

●受講者の年齢層は偏っていない

- ・単身者、既婚（子どもはいない）、育児中、育児後といった年齢層
- ・年齢層が違くと社会背景も違うため、ジェネレーションギャップを感じている様子が伺える

●受講者のほとんどが就労している女性であった

- ・家庭と仕事の両立の上で、市民（地域）活動に理解できる環境となる

●市民（地域）活動については、どの年齢層でも一定レベルの関心があると感じるが、実際の活動への参加は過去の経験の有無によって左右される傾向がある

- ・経験者は、市民（地域）活動への参加の障壁をあまり感じていない
- ・障壁は、新たな時間を割くこと、専門性を要することと感じている

⇒インターンシップ、アクティブラーニングの手法を取り入れることが必要

●受講者の多くは、スキルやノウハウの習得よりも他者とのコミュニケーション（交流）にニーズが高い

⇒ワークショップ形式の比率を高くすることの検討

大学としては、女性、仕事との両立、リカレントなどをキーワードにした新たなターゲットの掘り起こしのための広報の充実・強化をしていく必要がある。

また、近年の複合化する社会課題については、NPO/行政/大学などの取り組みだけでは対応できない。様々な非営利セクターも増えているので、幅広いネットワークを構築し、各々の強み・専門性を活かしたインターンシップやアクティブラーニングの導入も検討の余地があるだろう。

受講者インタビュー

ターゲット別セミナーを受講された方に、受講の感想や特に印象に残った学びなどをうかがいました。
インタビュー日：平成30年12月20日

他業種交流&キャリアアッププログラム受講者 Y.Kさん（30代）

インフラ企業で営業職として仕事をしていますが、今は育児休業中です。子どもが一歳の時に保育園に入ることができず2年目になりました。クレオ大阪の保育付きのセミナーに参加していた時に館内のポスターを見て、参加を決めました。

これまでは深夜に及ぶ働き方をしていましたが、今後どのような働き方をすればいいのかを考える機会になりました。仕事を続けるか、やめるかの二者択一しかないと思っていたけれど、その間の働き方を模索することもできるのではないかと、一歩前に進んでみようという気持ちになりました。社外の育児休業中の女性から率直な意見を聞いたことがよかったし、ディスカッションを通じて論理的なコミュニケーションができて思考回路を仕事モードに戻すことができました。役職に就く前に育休に入りましたが、子育てと仕事の葛藤の中で役職に就いている女性の話聞いてみたいです。



女性起業家START UPプログラム受講者 くりたみほさん（30代）

今は友人が経営している親子カフェを手伝って親子向けのパン教室を開催しています。子どもは保育園に入っています。自分が住んでいる地域でも親子カフェをやってみたいと考えてこの講座を受講しました。このような講座はいろいろな人とのネットワークづくりの場（縁作り）だと思っていましたが、それだけでなく目標シートを作成することによって具体的にすべきことが見えてきました。

これまで雇われて働いたことしかなかったのですが、自分で起業するためには何が必要なのかわかりました。今は親子カフェの場所探しをしているところですが、交渉する際に講座で学習したことがとても役に立っています。やりたいことを具体化するために相談できる場所があればいいと思います。クレオ大阪の「女性チャレンジ応援拠点」にも行ってみたいです。



市民活動チャレンジサポートプログラム受講者 C.Iさん（30代）

この講座に参加したのは大学の職員に声をかけられたのがきっかけです。結婚して大阪に来て今は大学の事務職員をしていますが、結婚前は宮城県のNPOで働いていました。仕事をしながらも週末などに何かできることはないかと考えて受講しました。

大学の講座だったので、事例だけでなく大学の先生の統計に基づく講義もあって興味深かったです。また、市民活動のハードルが高くないこと、楽しくできそうなこともわかりました。

来年は社会福祉関係の仕事に転職する予定ですが、子どもの居場所づくり活動のボランティアができればいいと考えています。仕事をしていると何度もセンターに行くのは難しいので、SNSで情報が得られるといいと思います。



文部科学省 平成30年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」



女性のキャリアを拓く まなびフェスタ

平成31年
日時 2月24日(日) 10:00~16:00
会場 クレオ大阪中央

雇用保険受給中の
方は「求職活動実績」
として認定されます



トークセッション
& 交流会

学びとキャリアを重ねてより輝く女性の未来

■コーディネーター



リー・ヤマネ・清実氏
Personal Assistant for You LEE's
リース代表 中小企業診断士

■パネリスト



竹村 知紘氏
移動する竹村商店



小澤 裕子氏
公益財団法人大阪YWCA
会長



烏生 由起江氏
大和ハウス工業株式会社
人事部ダイバーシティ推進室
次長



藤生 恭子氏
株式会社Baseball Planning
代表取締役



田中 陽子氏
クレオ大阪子育て館 館長

- パパの子どもとの過ごし方実践講座
- 女性のためのキャリアデザインワークショップ
- 起業アイデアプレゼンセミナー
- 地域の「居場所づくり」をしたい人のための
ワークショップ&交流会
- 情報コーナー「育児・介護との両立コーナー」
適職診断(先着順)
「市民活動・生涯学習コーナー」

女性ハンドメイド作家
ワンダーマルシェ
11:00~14:00

主催：大阪市男女いきいき財団 大阪市立大学 株式会社アクセプト 後援：大阪市女性起業家情報交流協会
協力：大阪市 厚生労働省 大阪マザーズハローワーク 公益財団法人大阪YWCA

トークセッション&交流会

学びとキャリアを重ねてより輝く 女性の未来

平成31年2月24日（日） 13時～16時



1. トークセッション 要旨

リー・ヤマネ・清実さん（Personal Assistant for You LEE's リーズ代表 中小企業診断士）

学びには3つのプロセス「知る」「考える」「努める」がある。「知る」ことで何かに気づき、気づいたことを「考え」、そして、考えた結果として認識や意識が変わることで「努める」。行動した結果を知り、また考えるというサイクルを回しながら学び続けていくことが重要である。このサイクルこそが「主体的な学び」であり、自身の成長や人生を豊かにしていく。

竹村 知紘さん（移動する竹村商店）

秋冬は焼き芋、夏はかき氷などの移動販売をしている。ツイッターやフェイスブックで自分の位置情報をリアルタイムで発信して集客したり、やりたいことなどを発信したりするのにSNSを活用している。発信することやいろいろな場に参加することで新たなつながりが生まれる。

鳥生 由起江さん（大和ハウス工業株式会社人事部ダイバーシティ推進室次長）

組織の中で働くことは何かと制約もあるが、自身で学びを重ねてアップデートしていけば、会社の中でも自分らしく納得して働くことは可能ではないか。自分の意見やアイデアを発言できるチャンスが巡ってきたときに、その機会を活かせるよう学び続けることや一緒に取組める仲間づくりが重要である。

藤生 恭子さん（株式会社Baseball Planning代表取締役）

世の中になくものをつくる、必要とされているがなかったものを形にする「パイオニア」であることを意識しながら、10年以上事業を継続させてきた。そのなかで感じることは、伸びる人は自己分析できる人、必要なことや求められていることができる人、行動力・決断力がある人ということである。自分を伸ばす現場をチャンスととらえて、ぜひ挑戦してほしい。

小澤 裕子さん（公益財団法人大阪YWCA会長）

大阪YWCAの事業には、会員自らの気づきによって生まれたものが多くある。災害時の支援や日本語教育など、時代のニーズや地域のニーズに応じて事業を行ってきた。私にとっては、自分の問題意識を率直に本音で話し合える仲間や居場所がYWCAであり、活動を続けることができた理由である。

田中 陽子さん（クレオ大阪子育て館館長）

クレオ大阪では子育て中の方も安心して学んでいただけるよう、ほとんどの事業で一時保育を付けている。さまざまな相談や女性チャレンジ応援拠点で、女性の学びやキャリア形成をサポートできる仕組みがあるのでぜひ活用していただきたい。

2. 交流会

5テーブルに分かれてグループ交流会を行った。コーディネーターやスピーカーも各テーブルに入り、ファシリテーターを担った。さまざまな話題が提供され、大いに意見交換を行った。最後に、全体交流会として、各テーブルから印象に残った話を発表し、会場全体で共有した。

まとめ

<申込参加状況>

申込者数：35名、参加者数：30名（20歳代2名、30歳代8名、40歳代7名、50歳代8名、60歳代4名、70歳代1名）



<成果・所感>

- 内容について（満足度） ⇒100%（「大変満足」「おおむね満足」と回答した人の割合）
- 今後の生き方・働き方を考えるうえで参考になった ⇒100%（「とても参考になった」「参考になった」と回答した人の割合）

女性のキャリアは多様であるならば、参加者自身のキャリア形成の参考にさせていただくトークセッションもまた、バラエティに富んだスピーカーが必要であると考えて場の設定を行った。コーディネーターからは、スピーカーから具体的な活動の話を引き出しつつ、学び続けていくために必要な考え方や姿勢を提示していただいた。

参加者もまた多様であり、グループ交流会のなかで今後の活動のつながりができた方もおられた。参加者同士の交流から他者の考えを知ることで、自分についてより深く考える（=自己分析）学び合いの様子がみられた。今回参加して感じたことや考えたことを次の行動につなげていただくことを目的に、配布資料に「今回の参加を私の飛躍につなげるワークシート」を用意し、各自で取り組んでいただくよう案内した。

<受講者の感想>

● 内容について

- ・ ゲストの先生方も素晴らしかったですし、グループワーク、交流会もとても勉強になり、将来がんばる姿勢が身につきました。
- ・ 思った以上に内容が濃かった。
- ・ 交流会ではいろいろな方のお話を伺って、今後活動するうえでつながりができた。

● 今後の生き方・働き方を考えるうえで参考になりましたか？

- ・ 今後何をしていけばよいか見つかった。
- ・ 今後の参考になる「キーワード」をいくつか聞く事が出来た。
- ・ 女性は、様々な生き方・働き方があることがわかった。
- ・ 色々な立場の講師の先生からお話を伺うことができ、引き出しが増えた。
- ・ 将来に向けて、私もスキルアップしたり資格を取得したり努力する姿勢が大事だと改めて気づかされた。

● 具体的な感想・印象に残ったこと

- ・ パイオニア。必要とされている、なかったものを提供するという言葉。
- ・ 13時から16時まで3時間、素晴らしく充実した有意義な時間をありがとうございました。とても為になり、勉強になるセミナーでございました。本当に来てよかったと、心から思えました。努力していく姿勢が大事ということを今後の人生に活かしていきます。

女性のためのキャリアデザインワークショップ

“自分らしく”社会で輝くための考え方とスキルアップ手法を学ぼう

平成31年2月24日（日） ①10時～12時、②13時～15時

講師：若江 真紀（株式会社アクセプト代表取締役・株式会社キャリアリンク代表取締役）

1. 導入

「キャリア」に対して参加者が共通認識をもつための 導入
「キャリアってなんだろう？」
「私のキャリア形成」（講師自己紹介を兼ねて）



2. これまでのキャリアをふりかえる

「自分のライフウエーブを知る」事例を示し、ワークの
ポイント説明。中学時代、高校時代、大学時代、現在までをふりかえる。

3. 社会とのかかわりを考える

「労働力人口と労働力率の見通し（2016年との比較）」「年齢階級別女性労働力率」（国際比較）

4. これからの自分を考える

「自分の強みは？」「どのように活かしたい？」ワークブックに記入し、グループで共有

5. 情報提供レクチャー

- ・「女性のジレンマ」 仕事と家庭を両立するうえで多くの女性が抱える心理
- ・「パートナーシップ」の必要性和、その壁となっているさまざまな要因（パートナーの残業、結果としての子どもを持つ男性の家事育児時間国際比較、なかなか家事ができない根拠としてのこれまでの学校教育の問題）

6. 変わる日本の教育について知る

「社会・学校・家庭の変化ポイント」「2020年学習指導要領改訂の方向性」「日本の学校教育が、どうかわるのか」

7. 社会とかかわるうえで大切な資質・能力

「今、社会で求められている資質・能力」分析ワーク「企業が採用選考にあたって重視した能力」
「産業界が求める能力の変遷」「21世紀のグローバル社会に求められること」

8. 仕事も！家庭も！イキイキと社会とかかわるポイント

- ・組織環境に求められること、すべきこと
- ・社会は変化している、会社も変化している⇒あなた自身はどう変化する？と投げかけ、考える

9. これからのことを考える

～自身のキャリアアップをイメージしましょう～

トークプランニング「私の決意」、プレゼンテーション「私の決意」、「講師からのメッセージ」

まとめ

<申込参加状況>

申込者数：午前 9名、午後 4名 参加者数：午前 4名、午後 2名

<成果・所感>

- 内容について（満足度） ⇒100%（「大変満足」「おおむね満足」と回答した人の割合）
- 今後の生き方・働き方を考えるうえで参考になった ⇒100%（「とても参考になった」「参考になった」と回答した人の割合）

10月～11月に実施したキャリアアッププログラムは働く女性を対象としたものであった。企業個別にキャリア研修などは実施されることはあるものの、どう部下を管理するか、育てるか、という視点からのもので、特別な機会がない限り、普段なかなか自身のキャリアについて考える機会を持っていないことや他の企業の女性たちと交流できる講座ということで満足度は高かった。

このセミナーには休職中の女性が複数おられたことから、女性のキャリア形成というテーマは働いている、働いていない人に関係なく、「同じ女性として」切れ目のない支援テーマだということだが、フェスタの参加者の反響も合わせて感じる事ができた。女性は共感を求める—そういう仮説を裏付けるかのように、「他の人の考えや経験を知る」「他の職業や立場の違う人の話が興味深かった」などに代表される「他の参加者との交流からの学び」をアンケートで評価いただいている声が多いのが印象的であった。集客面は課題があったが、今回のセミナー、フェスタを通じてかわった女性たちのセミナー受講姿勢や、思考プロセス、いただいた生の声などから、こちらとしても学びを得られたと考える。今後は、周知・広報におけるアプローチの方法等、学びをもとに課題を改善し、裾野を広げられる活動を継続できればいいと考える。

<受講者の感想>

- 内容について、

- ・充実した内容でした。時間が少したりないと感じた。
- ・ワークがたくさんありました。

- 交流や学び合いはできましたか？

- ・若江さんや他の参加者の方の経験や考えなどを聞くことができ、よい刺激をもらえました。
- ・みんなが一人一人発表する機会があった。

- 今後の生き方・働き方を考えるうえで参考になりましたか？

- ・求職中です。できない理由を探しては足踏みしていた気がします。一步を踏み出す勇気が出ました。
- ・今後、必要とされる力を自ら考えたりして参考になりました。

- 具体的な感想・印象に残ったこと

- ・もっと自己分析を深めてみたいと思った。セミナー等利用をまたしたいです。十分できないことも再実感した。
- ・他の職業や立場の違う人の話が興味深かったです。
- ・自分のキャリアを振り返り、改めて充実したと感じる理由を認識しました。
- ・自分を見直すことのきっかけを教えていただけました。ありがとうございました。

起業アイデア プレゼンセミナー

平成31年2月24日（日） 10時～12時

講師：増田 正子（大阪市女性起業家情報交流協会 相談役・司法書士）

1. プレゼンテーション

11月に実施した、「起業を考えている女性のためのスタートアップ講座」修了者5名によるプレゼンテーションをおこなった。一人3分のプレゼンに対し、参加者が質問、感想などを発言をする場を設け、参加型での実施とした。

<プレゼンタイトル>

- ・「小さな小屋から世界とつながる」（50代）
- ・「このままでは死ねない！シニア世代へ暮らしのサポート」（50代）
- ・「地域に笑顔溢れるホッとくつろぐ認知症カフェ&ケアプランセンター」（50代）
- ・「癒しのケアで心も満たされる」（40代）
- ・「食から生まれる『絆』」（30代）

2. 「プレゼンの威力！貴方の魅力があふれ出す！」

夢と情熱を伝えるために重要なポイント

- ・短いセンテンス、明瞭に
- ・具体的数字で具体性をあらわす
- ・自分の強みが相手にどう役立つか
- ・惹きつけるための「フック」は、質問形式

3. 交流会「飛び入りプレゼン大歓迎」

当日参加者より5名、飛び入りでプレゼンテーションをおこなった。

<プレゼンタイトル>

- ・「女性にやさしいインド健康法 アーユルヴェーダ」（50代）
- ・「亡くなった方の大切なものを必要な人に提供する『遺品整理』」（30代）
- ・「葬儀でのピアノ演奏「セレモニーピアニスト」」（50代）
- ・「神の声を届けるタロット占い」（50代）
- ・「子どもの貧困の連鎖をなんとかしたい」（文部科学省職員）



プレゼン内容について参加者と質疑応答の様子

まとめ

<申込参加状況>

申込者数：20名、参加者数：17名

<成果・所感>

- 内容について（満足度） ⇒100%（「大変満足」「おおむね満足」と回答した人の割合）
- 今後の生き方・働き方を考えるうえで参考になった ⇒100%（「とても参考になった」「参考になった」と回答した人の割合）

11月に実施したセミナーの修了後に、フェスタにてプレゼンテーションを実践する場を持つことで、セミナー受講だけで終わらず、相手に伝わるよう、あらためて自身の強み、やりたいことを整理する機会とした。

今回プレゼンをした修了生5名については、11月のセミナーでのプレゼンと、フェスタでのプレゼンには格段の差がみられ、講師の指導にあったように明瞭かつ具体的で、聞き手の印象に残るプレゼンテーションを実践することができ、起業アイディアのブラッシュアップの成果がみられた。

当日参加者からのプレゼンについては、多様なアイディアがあがり、また文部科学省の方の熱い想いのプレゼンもあり、セミナー終了後は参加者間での交流や情報交換につなげることができた。

<受講者の感想>

●内容について

- ・女性ならではの、の起業アイディアがいろいろ聞いてよかったです。
- ・皆様の熱いおもいを聞いて勉強になりました。
- ・プレゼンもさせていただき、質疑応答の時間まで作っていただけたことでよい経験になりました。みんなが一人ずつ発言できる場を設けていただいた講師に大感謝です。
- ・プレゼンと質疑応答で、新たな展開が生まれるのが興味深かった。

●今後の生き方・働き方を考えるうえで参考になりましたか？

- ・今回のセミナー、11月からの講座を通して自分を改めて見直す機会を得られました。自分をわかっていないと相手にも伝えられない、基本的なことですが、これまでそのような機会がなかったので、大きな意味のあるイベントでした。ありがとうございました。
- ・みんなのいろいろな想いを聞くことができ、とても参考になりました。
- ・みなさんの夢への情熱でパワーをいただきました。

●具体的な感想・印象に残ったこと

- ・何も決めてないけど、とりあえず熱意あるという状態で参加することで前に進めた気がする。
- ・プレゼンの効果的なまとめ方がわかってよかったです。
- ・プレゼンは、情熱だ！が心に残りました。
- ・自分のプレゼンの仕方をしっかりと研究しようと思いました。名刺交換の際の30秒プレゼンもしっかりと考えようと思います。お話が軽快で笑いもたくさんあって2時間があっという間でした。ありがとうございました。

地域の「居場所づくり」をしたい人のためのワークショップ&交流会

平成31年2月24日（日） 10時～12時

ファシリテーター：林 久善（大阪市立大学 大学運営本部 社会連携課長）

1. 自己紹介タイム

自己紹介とともに、居場所に対する思いを語りながら、参加者同士の緩やかな交流から始めた。

【参加者の居場所への思い】

- ・他者とコミュニケーションを取りづらい方に、まずは声を発することをできる場を提供したい。
- ・子育て中のお母さんが気軽に集まることができる居場所をつくりたい。
- ・お寺の住職の女性で、若者の安心な居場所として企画を考えていきたい。

2. 「思いを見える化してみよう」

プランニングシートを活用し、参加者それぞれの現時点でのプランをセルフワークで可視化し、一人ひとりから発表しながら、感想やコメントを通じて参加者間の交流を促した。

プランニングシートの作成にあたっては、中途半端、不完全を前提としましたので、プレッシャーなく記入できるように配慮した。

PLAN ①

人とのコミュニケーションが苦手な方を対象に、声を発する場所としての居場所を公民館で行いたい。企画は、週1回、平日2時間、発声練習を検討している。役所にチラシを配架してもらいたい。

（当事者としての経験がある女性）

PLAN ②

妊婦・乳幼児を子育て中のお母さんが、悩みの解消やストレスを発散し、自分に目を向けて、自己肯定力を高めることができる居場所を地域集会所で行いたい。企画は、元気なシニアの方との交流や、ネイルケア、ハンドマッサージを検討している。すでに米粉の料理教室を自宅で行っている。（助産師のママ）

PLAN ③

今年5月のGWに行くところがない若者が、安心して集まることができる居場所を、お寺で行いたい。企画は講話や顔ヨガなど友人と検討している。いろいろとターゲットに届くようなチャンネルを調べているが、皆さんからコメントをいただきたい。（お寺の住職の女性）

3 交流会

- ・それぞれのプランを運営の視点で見よう。必要経費と受益者負担とのコストバランスは継続性の観点からも重要であるため、必要経費を見積り、参加者人数を想定して参加費を考えた。
- ・最初は実績をつくるために初期投資は負担するといった考え方もあり、補助金や助成金、寄付などのファンドレイジングも考えたいとのことで、助成金などの情報収集の必要性を共有した。
- ・参加者からは、ステークホルダーになる人や団体とのコラボレーションも検討したいとの意見があった。

まとめ

<申込参加状況>

申込者数：5名、参加者数：3名

<成果・所感>

- 内容について（満足度） ⇒100%（「大変満足」「おおむね満足」と回答した人の割合）
- 交流できた ⇒100%（「交流できた」と回答した人の割合）
- 居場所づくりの参考になった ⇒100%（「とても参考になった」「参考になった」と回答した人の割合）

2時間と限られた時間でできること、参加者のプランの完成度に差異があることなどを考慮して、プランニングシートを仕上げるよりも、交流することに重点をおいて進めたことにより満足度が高まった。

また、各参加者ともに「思い」が先行しており、継続性や安定性といった「運営のノウハウ」がない状態であったことが気になったので、必要経費を試算することにもチャレンジしてもらい、気づきを促した。

個人のプランを可視化し、プレゼンテーション、意見交換することにより、現行プランの強みと弱みの理解が深まり、プランのブラッシュアップにつながったと考える。

社会課題に対応していきたいとの思いが共感できた有意義な機会を創出することができたと思う。

<受講者の感想>

- 具体的な感想・印象に残ったこと

- ・居場所づくりというキーワードだけで申し込みしましたが、ワークで具体的に示して、それを発表したり話を聞けたので良かったです。
- ・思いをアウトプットできて、頭が整理された。他の方の視点もおもしろかった。情報収集が必要と思った。
- ・自分の考えがまとまった気がする。また、女性が社会に対して思っていることはみんな同じようなことだと思えた。

- 参加者同士で交流や学び合いはできましたか？

- ・互いの意見交換できる時間があった。

- 今後の生き方・働き方を考えるうえで参考になりましたか？

- ・考えたし、やることも見えた。
- ・子育てをしながらでもキャリアをつみたいと思った。



パパの子どもとの過ごし方実践講座

「笑ろてるパパがええやん!」を合言葉に、ママの笑顔をもっともっと輝かそう!

平成31年2月24日(日) 10時~11時50分

講師: 和田 憲明 (特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン関西 副理事長)

1. 子どもと仲良くなる3つの魔法+a

正座をし、ハンカチを頭の上に乗せ、「こんにちば〜」とお辞儀をする。床に落ちたハンカチを頭に乗せる。その動作を何度も繰り返す。徐々にリアクションをオーバーにしていく。

- ・子どもに安心感を与えることができる。
- ・子どもの表情に合わせた表情をすることで共感・仲間意識を持たせる。
- ・子どものリアクションに合わせた感情表現をすることで認められる喜びを喚起し、自信を持たせる。

2. オススメ絵本

絵本の紹介と、読み聞かせ方のコツを伝授。どれもに共通して言えることとして、最後まで読み終わったら、もう一度表紙に戻り、絵本のタイトルを言って締める、という技を伝えた。

- ・あそべる絵本⇒「いないいないばあ」「ぴょーん」「きんぎょがにげた」
- ・発音できるもの⇒「もこもここ」「ビビビビ」「へんしんトンネル」
- ・パパ・ママ自身が好きなもの⇒「ウルトラマンシリーズ」

3. タオルと古紙あそび

パパじゃなきゃできない、全身を使ったダイナミックな遊び(ボディランゲージ)

- ・ぶらんこ⇒タオルに座らせ、ゆらゆら揺らす/ひこうき⇒タオルを使い、パパが軸になって回す新聞紙を使った遊び
- ・やぶる⇒子どもの前で広げ、思いっきりパンチをさせる(予め小さな切れ目を入れ、パンチと共に割く)
- ・つくる⇒魚のエレメントをつくり、落して遊ぶ

4. パパ座談会

自己紹介、子育てで自分がやっていること、パートナーへの感謝について文書化してもらい、それをもとに3人ずつのグループで交流。その後、「これから家族のために新しくしようと思うこと」を発表。

まとめ

<申込参加状況>

申込者数：15名（うち子ども8名）、参加者数：13名（うち子ども7名）

<成果・所感>

- 内容について（満足度） ⇒100%（「大変満足」「おおむね満足」と回答した人の割合）
- 今後の生き方・働き方を考えるうえで参考になった ⇒100%（「とても参考になった」「参考になった」と回答した人の割合）

少人数のリラックスした雰囲気の中、導入や絵本の読み聞かせのコツにおいて、「何度も繰り返すことを子どもは好む。なぜならそれが安心感につながるから」という話に参加者は非常に感銘を受けておられる様子で、時折相槌を打ちながら熱心に聞き入っておられた。活発でじっとしていないタイプのお子様は、見守りスタッフのところへも積極的にかかわりに行き、用意されたおもちゃなどで遊ぶ場面があった。

タオルを使い、全身を使って遊ぶ方法や新聞を使った遊びは、参加者もご存じなかったらしく、パパも子どもも笑顔があふれ、反響が非常に大きかった。途中0歳児のお子さん（女兒）が大泣きをしましたが、見守りスタッフのおかげで最終的には眠りにつき、中断することなく、またパパも若干個人的に中断される場面もあったものの、退出することなく講座に参加いただくことができた。パパ座談会は自己紹介、子育てで自分がやっていること、パートナーへの感謝について文書化してもらい、それをもとに3人ずつのグループで交流をしていただいた。

子どもが途中で泣き出す、という場面があったことについて、本来は子どもは託児したうえで受けることが好ましいが、あえてそれをしていないのは「世の中のママの気持ち」を体感してもらうため、ということで締めていただいた。

<これから家族のために新しくしようと思うこと>

- ・ 副業的スキルアップ（いつ今の仕事がなくなっても大丈夫！家族を安心させるため）
- ・ 1日子どもと二人で過ごす時間をつくる（妻に自由な時間をプレゼント）
- ・ 休日はできるだけ子どもと一緒に遊ぶ
- ・ 早めに家に帰る
- ・ 寝る前に絵本の読み聞かせをする
- ・ 家事を少しでも手伝う

<受講者の感想>

- 内容について、

- ・ 絵本や動く遊びなど教えてもらったから。
- ・ 家に帰って役立つ内容がたくさんあったので。
- ・ 新しい遊び方等、勉強になりました。

- 交流や学び合いはできましたか？

- ・ 座談会で話を聞いた。
- ・ 座談会の時間があったので。

- 今後の生き方・働き方を考えるうえで参考になりましたか？

- ・ 今後の参考になりそうな保育士の方から話を聞いた。



情報コーナー 育児・介護との両立コーナー

- 厚生労働省大阪マザーズハローワーク
- 大阪市ファミリー・サポート・センター
- 認定NPO法人ノーベル
- おおさか介護サービス相談センター

育児・介護との両立は、女性が輝き続けるうえで重要な課題である。このコーナーでは、両立の課題を解決するのに役立つ情報やサービスを持つ施設・団体の協力により、ポスター、チラシ等で情報提供を行った。

なかでも、大阪マザーズハローワークのコーナーでは、適職診断や両立に理解のある企業の求人票の閲覧も実施し、学びの出口を意識した情報提供を行った。



情報コーナー 市民活動・生涯学習コーナー

- 大阪ボランティア・市民活動センター
- クレオ大阪・女性チャレンジ応援拠点
- 大阪YWCA
- 大阪市立大学
- 大阪市立総合生涯学習センター 阿倍野・難波市民学習センター

市民活動の支援や学習機能を持つ施設の協力により、ポスター、チラシ等で「学び」「実践」に関する幅広い情報を提供することができた。総合受付近くということもあり、多くの人が立ち寄ってチラシ等を持ち帰っていた。

2つの情報コーナーの実施は、参加者への情報提供だけでなく、協力いただいた施設・団体との今後の連携をきっかけを作ることができた。



女性ハンドメイド作家ワンデーマルシェ

自分の得意なことや好きなことを仕事にしようと頑張る女性起業家たちのマルシェを実施した。起業アイデアプレゼンセミナー参加者の次の段階に進んでいる女性たちであり、マルシェ内での交流もみられ、ロールモデルとなっていた。



本事業で講師を担当いただいた方より

リー・ヤマネ・清実さん

『主体的に自分の人生をデザインしていく』、それを実践されている5名のゲストの方々のお話しは会場のみなさんの内面に静かに響いている様子がコーディネーター席からもうかがえました。ゲスト竹村氏の軽やかさ、鳥生氏のしなやかさ、藤生氏の清々しさ、小澤氏の一途さ、田中氏のおおらかさ。それらがよいバランスで融合し、参加者のみなさんに良いくまなび>の後押しになったことでしょう。みなさんの実践を願うばかりです。

増田 正子さん

私は、「働くことは生きること。なぜ働くのか、なぜこのビジネスなのか、なぜ自分がするのか」について真剣に考えて頂く講座を心掛けています。今回は、その「思い」を「ビジネスプラン」を軸にプレゼンするというものでした。当初、上手く伝えられず空回りしている「熱い思い」は、少しのアドバイスでみるみる魅力的なプレゼンに仕上がっていき、当日は、楽しそうに伝える受講生の姿に心が震えました。この素晴らしい発表に刺激され、飛び入り参加のプレゼンターも出るほどでした。講座からプレゼン発表まで数ヶ月の時間があり、その間にしっかりと「思い」に向き合えたのが良かったと思います。座学だけに留まらず、人前で発表ができれば、考えの整理に繋がり自分自身への励みになります。このような講座をどんどん開催していただきたいと思います。

竹村 知紘さん

女性が起業する際、まずはできる範囲から始めるという方も多いと思います。今は物やサービス、場所などを、多くの人と共有・交換して利用するシェアリングエコノミーという仕組みも増えているので、他の人と手を取り合って、自分の事業の色を出していくことも大切です。そういうきっかけやコラボレーションは、やはり地道な足運びから。ぜひ、いろいろな学びの場や関心のある場に足を運んで、自分のプロジェクトを知ってもらい挑戦してもらえればと思います。

小澤 裕子さん

女性の、特に若い世代の方の起業に対する意識や積極性に感銘を受けました。自分の経験や資格、特技を生かし、新しい分野を切り開くことに対し、意欲的に人とつながっていこうという姿勢がまぶしく、また頼もしく感じました。また、企業の中の取り組みでも、既存の枠組みにとらわれることなく、女性のニーズを取り込んで新しい挑戦が出来ることに気づかされました。

田中 陽子さん

人生のターニングポイントは、いつ訪れるかわかりません。私自身も、「あの時の選択が今に繋がった」と思う転機がありました。そのチャンスをしっかり掴むため、「主体的な学び直し」と自ら行動を起こすことが大切です。学び直しを応援する機関や施設は多々ありますが、「クレオ大阪」もその一つとして、女性が輝く未来を応援し続けます。ぜひご活用ください。お待ちしております！

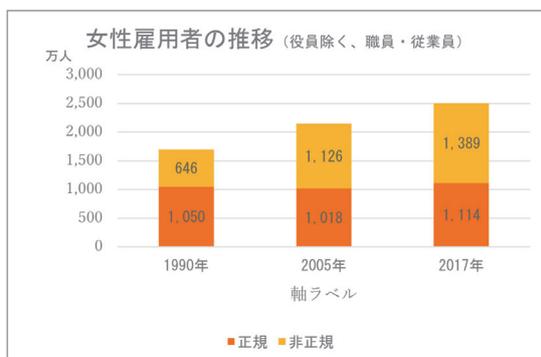
まとめ

本実証事業では、女性の生き方が多様化する中で、様々なライフステージにある女性たちのニーズを軸に、1「企業でのキャリアアップ」、2「起業」、3「地域・市民活動」という3つのキャリアステージを設定した。そして、そのターゲット別に3つの体験型・実践型のセミナーを10月から12月に実施した上で、さらに学びを深め、異なるキャリアステージを知り複眼的な視点を養うために2月に学びフェスタを開催し、女性の学びとキャリア形成を立体的に行った。

(1) 学びのニーズの多様性～キャリアステージ・ライフステージのとらえ方～

社会が多様であるように、個人の生き方・働き方や価値観も多様である。ましてや出産やその後の育児・介護などのライフイベントによる影響を受けやすい女性の場合は、一層多様な状況が広がる。

また、「働き方」の観点で、女性雇用者の推移をみると、1990年の1965万人から2017年の2503万人と538万人増加している。その内訳を比較すると、正規雇用：64万人増（106%）、非正規雇用：743万人増（215%）であり、「働く女性は増えたが、多くは非正規」となっている。



厚生労働省「働く女性の実情」と総務省「労働力調査」

このことは、キャリア形成の初期の段階で十分な職業能力開発の機会を得ていない女性が多数であるという前提の必要性を示している。

正社員としての就業経験がないことや離職後のブランクなどがあると、働くことや社会参画に対する自信を失っている場合や、主体的にキャリアを形成していくという視点を持ちにくいことも考えられる。

一方で、女性の登用計画づくりを企業に義務付ける女性活躍推進法が2016年に完全施行されて、女性が働きやすい制度や仕組みも整い、管理職としての登用などの女性活躍の動きは加速している面もある。また、近年のソーシャルビジネスや小商い等の事業活動の広がりも注目されている。

1990年以降の女性のキャリアステージ・ライフステージのとらえ方については、「職務経験の内容や年数により、一層キャリアに差が開いていること」や、それを背景として「主体的に自分を育てる＝キャリアを形成するという姿勢・意欲に開きがあること」、また、共働き世帯が急伸びしても夫の家事育児時間は伸び悩んでおり、「自身に振り向ける時間や余裕がないこと」を理解したうえで、さらに各個人の価値観も多様であることを認識する必要がある。

こうした多様な状況の中で、どのようなステージの女性であれ、これまでの生き方・働き方にとらわれることなく、そのステージを一つずつあげていく、未来（キャリア）を主体的にデザインしていけるような学びの場の提供が必要である。さらに、意欲や姿勢が高くない（またはあきらめている）女性へのエンパワメントや伴走型のアプローチの視点も重要と考えられる。

(2) 大人の学び合い～学ぶ・考える・つながる～

本事業では、未来（キャリア）を主体的にデザインすることを目的として「学ぶ」「考える」「つながる」ことをコンセプトとして実施した。

「学ぶ」においては、設定した3つのキャ

リアステージで、「91%がキャリアを見直すきっかけに」「92%が起業への意思が変化」「100%が市民活動への意思が変化」という結果となり、本事業での学び直しにより自身のキャリアを再考することを促した。

「考える」においては、それぞれのキャリアステージに関する学びとして、体験型・実践型のセミナーにおいて、具体的に考える場を提供した。さらに、異なるキャリアステージを知り、複眼的な視点を養うために、フェスタのトークセッションにおいて、職業キャリアだけでなく、地域活動・学習などの多様なキャリアのスピーカーを人選し5人の方を招いた。スピーカーがバラエティに富んでいたという参加者の声に代表されるように、今後の未来（キャリア）の重ね方やその姿勢を考えるヒントを提供できた。

「つながる」においては、キャリアステージが異なる人との出会い・学び合いの場とするために、どのプログラムにおいても、講師やスタッフがエンパワメントの視点で適切にファシリテートし、交流・ネットワークの時間を必ず設けた。

「学ぶ」「考える」「つながる」の一連の流れで最も重要なことが「学び合う」という言葉に集約される。学ぼうという姿勢で臨む大人同士が主体的に学び合うことで、多様な考えに触れ、自他の違い、志向の違いを知り、相互にプラスの刺激をもたらすことができた。

さらに、トークセッションでは、学びのサイクルとしての「実践する」が提起された。学び、考え、つながって終わりでは成長はない。その結果、何をどのように努力するのか、実践するのか、その問いを投げかけて、行動変容を強く促す機会となった。



（3）大人の学び合いを支える地域の関係機関・団体とのネットワーク

本事業は、市民が様々な学びに触れる機会を公開講座と言う形のリカレント教育を提供している大阪市立大学と、企業で働く女性のネットワーク構築と教育事業を展開している(株)アクセプトと、女性の学び直しをサポートし様々なチャレンジ支援事業を総合的に実施している大阪市男女いきいき財団の3者を核として実施した。

さらに大阪マザーズハローワークの参画により、適職診断を行う他、雇用保険受給中の方の「求職活動実績」として9人を認定することもできた。

また、学びフェスタでの情報発信として、「育児・介護との両立」、「市民活動・生涯学習」の二つのコーナーを設置した。

キャリアステージ・ライフステージの多様さは各々が直面している課題の多様さであり、それらに応じた情報・資源を知りアクセスすることが必要となる。

大阪市内に点在する様々な社会資源（子育てや育児のサポート機関、病児保育、ボランティアセンター、生涯学習センター等）について、ワンストップで紹介することで、必要な情報にたどりつける機会、またこれまで見過ごしていた情報にも接する機会を提供できた。

（4）今後に向けて～男女共同参画センターを核としたプラットフォーム～

本事業は3つのキャリアステージを設定し、大人の学び合いの場を提供するものであったが、その「場」「拠点」については、男女共同参画センターを核とすることが有効と考えられる。ジェンダー問題、中・長期的なキャリア形成のための事業を通年で実施しているため、学びを志向する女性への情報発信力・訴求力も高く効果的な運営が見込まれ

るからである。

そして、情報提供事業や相談事業などセンターが有する他の機能との組み合わせにより、一人ひとりのライフステージやペースに合わせて、学びをサポート・補完することが可能となると考えられる。

一方で、学びのフォローアップの段階においては、大学などの教育機関や様々な関係機関が有する機能との連携が不可欠となる。男女共同参画センターと他の関係機関との有機的な連携体制をどのように構築していくか、本事業では緒についたばかりであり、継続的

な関係構築が必要である。

最後に、大人同士が主体的に学び合う意義と効果について前述したが、そうした主体性を持ち得ていない層、学びに対する意欲や姿勢が高くない層、男女共同参画センターなどの機関に足を運ばない層に対してこそ、人生100年時代の長い生涯のリスクヘッジの意味においても学びが不可欠と言える。

学びの場にアクセスしていない層に向けては、その理由や背景の分析と共に、周知・アプローチの方法について、社会的にも大きな検討課題と言えるのではないだろうか。

おわりに

本事業にご尽力いただいた関係者の皆様にお礼を申し上げますと共に、事業に参加いただいた皆様の今後の活躍を心から応援してまいります。

そして、学びフェスタの「女性ハンドメイド作家ワンデーマルシェ」に出展いただいた「Heart工房cha-cha」のステップアップの事例を紹介したい。

10年前にクレオ大阪中央（大阪市立男女共同参画センター中央館）のカフェ開業講座を受講された。その後、クレオ大阪東（同東部館）のプロ講師になろう塾を受講し、プロとしての「技能とセンス」を磨いていった。また、チャレンジ相談を活用して自分の中でぶれない軸をつくっていった。今回の出展に際してもネットワークを広げることができると快諾をいただいた。地道に少しずつステップをあげてきている様子が感じられる。

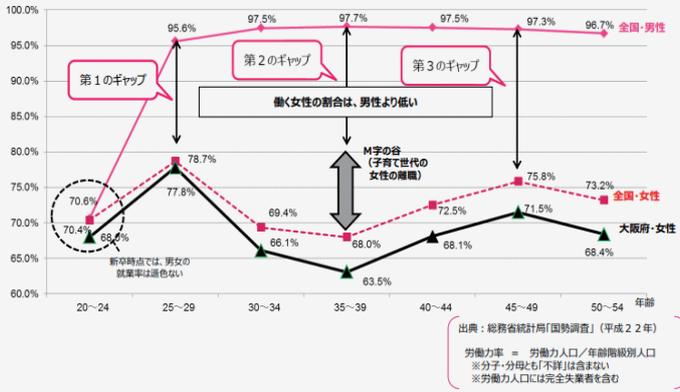
個人の可能性を広げていくための学びには、このような継続的な努力と時間が必要である。これからも一人ひとりのステージに沿ってサポートし、伴走してまいります。



データからみる大阪の女性

キャリアを積み重ねていく上で大阪の女性がどのような現状にあるのか、現状と意識についてのデータ集です。

日本の女性の就業では、M字カーブが見られる。
 大阪の女性は全国に比べて、M字の谷（第2のギャップ）が深く、その後の回復も鈍い。



年代別の就業率

第1のギャップ

新卒時点で男女変わらなかった労働力率が、25～29歳時点で女性が男性を16.9%下回り、その差が回復しない。

第2のギャップ

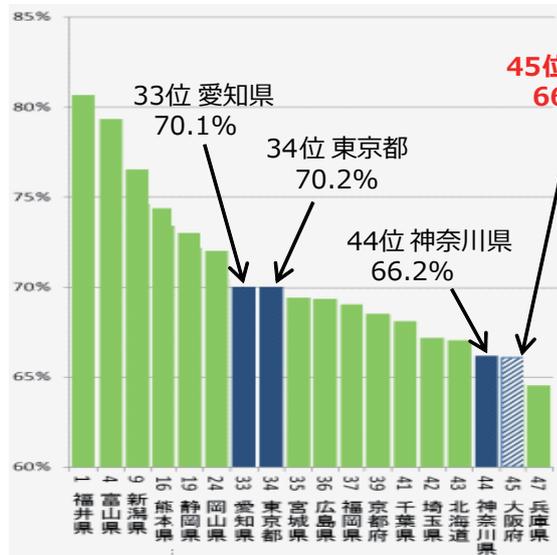
子育て世代の女性の労働力率が低下する

第3のギャップ

子育て終了後の女性の労働力率が回復しない。

大阪府女性の就業機会拡大に関する調査 (H25)

全国的にみると、20-59歳女性の就業率は45位と、低い水準にある。

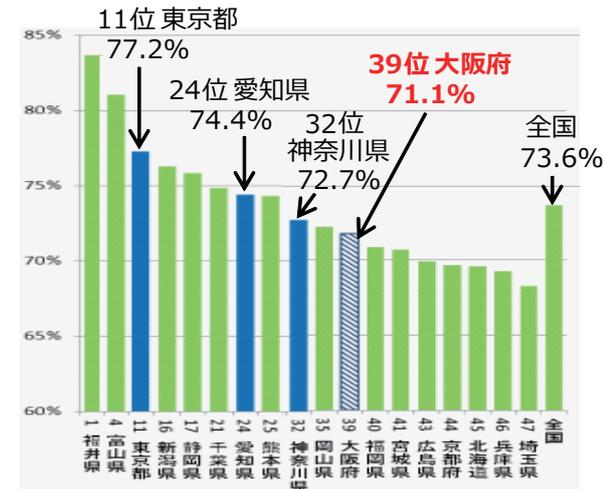


20～59歳女性就業率

前項で示した第1、第2、第3のギャップが大きいことが女性就業率の低さに大きな影響を与えている。

※上位県と政令指定都市を含む都道府県を抽出
 大阪府女性の就業機会拡大に関する調査 (H25)

25-34歳世代でも就業率は大都市府県と比べて低い順位のまま

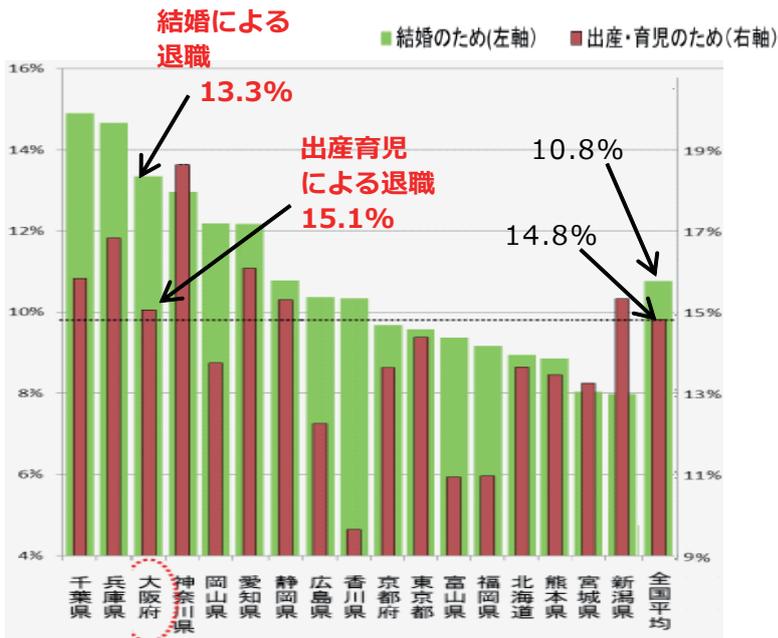


25～34歳女性就業率

25-34歳の世代で見ると、20-59歳世代に比べて大都市都県の女性就業率の順位は改善されるが、大阪府以外の大都市都県に比べて（東京都34位→11位、愛知県33位→24位、神奈川県44位→32位）、大阪府の順位の改善効果は大きくない（45位→39位）。

大阪府女性の就業機会拡大に関する調査 (H25)

結婚、出産・育児を理由とする離職が全国平均より高い

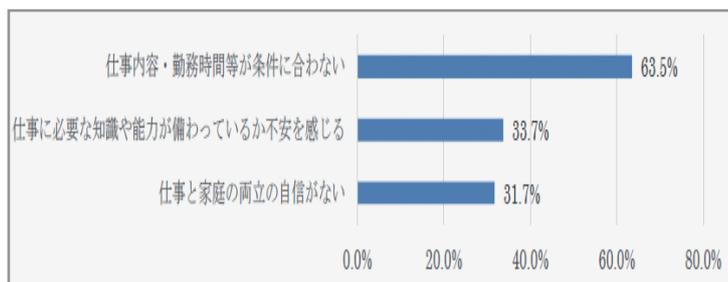


「結婚」「出産・育児」を理由にして離職した女性の割合

大阪府では、女性の離職者のうち、離職理由として「結婚」を理由とする割合が全国に比べて高い。また、「出産・育児」を理由とする離職も大阪府は全国平均より高い。

大阪府女性の就業機会拡大に関する調査 (H25)

再就職したい女性の3人に1人が知識や能力に不安

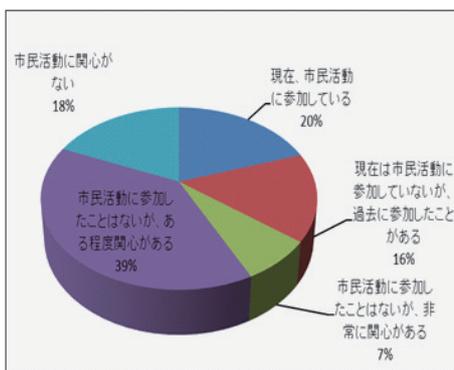


再就業が実現していない理由

再就職したい女性の33.7%が「仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じる」ことを再就職していない理由として答えた。また、両立に自信がないと答える女性も31.7%みられる。

大阪市男女共同参画に関する市民意識調査 (H27)

約4割の人が市民活動に関心がありながらも参加していない



参加してみたい市民活動

まちづくり推進活動	36.7%
子どもの健全育成を図る活動	34.2%
高齢者等支援等の保健・医療・福祉の続伸活動	31.6%

全体の8割が市民活動に関心を持っている。関心はあるが活動に参加していないのは約4割。女性の参加してみたい市民活動の第1位は「まちづくり推進活動」となっている。

大阪府市政モニターアンケート (H27)



文部科学省 平成30年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」実施報告書
事業代表者：一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会（愛称：大阪市男女いきいき財団）
〒543-0002 大阪市天王寺区上汐 5-6-25
電話 06-7656-9040

発行：平成31年3月